

国際通貨研レポート



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)

公益財団法人 国際通貨研究所

2022 年 BIS 世界外国為替市場調査について ～中国人民元が取引シェアで世界第 5 位の通貨に～

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員
橋本 将司
masashi.hashimoto@iima.or.jp

<要旨>

- BIS の 2022 年世界外国為替市場調査によると、世界の外国為替市場の 2022 年 4 月の 1 日あたり取引額は 7 兆 5,084 億ドル（前回比+14.1%）で、伸びはやや鈍化。
- 取引額の通貨別シェアでは、ドル、ユーロ、日本円、英ポンドの上位 4 位通貨の順位は不変。一方、中国人民元は前回の 8 位から 5 位へ順位が上昇した。人民元のシェア上昇は、ユーロや香港ドル、その他新興国通貨のシェア低下につながった可能性。日本円はシェア微減だが、円安による取引急増に支援されていた面に要留意。
- 取引額の地域別シェアでは、英国、米国、香港、シンガポール、日本の 5 大市場の順位は不変。日本のシェアは微減。英国と香港のシェアが低下しており、英国の EU 離脱や香港での 2020 年の国家安全維持法施行の影響が出た可能性も。

<本文>

1. BIS の 2022 年外国為替市場調査について

国際決済銀行（BIS）は、10 月 27 日に「2022 年外国為替市場及び店頭（OTC）デリバティブ市場に関する中央銀行サーベイ」¹の結果を公表した。本調査は世界の外国為替市場及び店頭金利デリバティブ市場の規模や構造に関する最も包括的な調査で、3 年

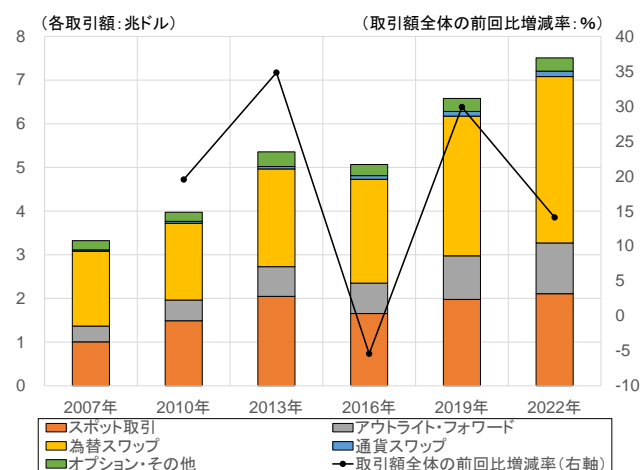
¹ [Triennial Central Bank Survey of foreign exchange and Over-the-counter \(OTC\) derivatives markets in 2022](#)

に一度、調査年の4月に実施されている。本稿では、このうち外国為替市場に関する調査結果について概説する。外国為替市場に関する調査は1986年から3年ごとに実施されており、今回2022年の調査では52の国・地域の1,200以上の報告金融機関が参加している。前回まで参加していたロシア国内の報告金融機関（前回取引シェア1%未満）が対象から外れた一方、アラブ首長国連邦（UAE）の中でドバイ金融センターが新たに加わった。

2. 2022年の外国為替市場の取引規模と取引項目別内訳

2022年4月の1日あたりの世界の外国為替市場の取引額は、7兆5,084億ドルと前回2019年の6兆5,810億ドルに対して14.1%の増加となった（第1、2図）。2019年の前年比増加率29.9%などと比べると、比較的緩やかな伸びに止まった。BISは、2022年4月が主要国の中央銀行による急速な利上げへの転換などにより為替レートのボラティリティが高まった時期であったことは、取引額の増加要因になり得た一方、コロナ対策のため一部地域で都市封鎖が実施されていたことが取引抑制要因になった可能性などを指摘している。取引種類別の内訳をみると、スポット取引と為替スワップが引き続き大きなシェアを占めている。特に短期（7日以内）の流動性調達や為替リスクヘッジなどに利用される後者の為替スワップ取引のシェアが上昇傾向にあり、今回の調査では全取引に占めるシェアが50.7%と半分以上を占めるに至っている（第1図）。

第1図：世界の外為市場取引額の推移と取引種類別内訳



(資料) BIS “2022年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

第2図：世界の外為市場取引額の推移と主要通貨別内訳

	2007年	2010年	2013年	2016年	2019年	2022年
USD	2,845	3,371	4,662	4,437	5,811	6,641
EUR	1,231	1,551	1,790	1,590	2,126	2,293
JPY	573	754	1,235	1,096	1,108	1,253
GBP	494	512	633	649	843	969
CNY	15	34	120	202	285	526
AUD	220	301	463	349	446	479
CAD	143	210	244	260	332	466
CHF	227	250	276	243	326	390
HKD	90	94	77	88	233	194
SGD	39	56	75	91	119	183
その他	771	811	1,139	1,127	1,533	1,623
合計	3,324	3,973	5,357	5,066	6,581	7,508

(資料) BIS “2022年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”
 (注) 本調査では1つの外国為替取引を両通貨のサイドからカウントし集計しており、個別通貨の取引額の合計は、外国為替市場取引額全体の2倍となっている。

3. 外国為替市場取引額の通貨別シェア

外国為替市場取引額の通貨別シェアをみると、1位の米ドル、2位のユーロ、3位の日本円、4位の英ポンドという上位4位の順位に引き続き変動は無し（第3図）。前回2019年からのシェアの推移をみると、1位の米ドル（44.1%→44.2%）と4位の英ポンド（6.4%→6.5%）が若干上昇した一方、2位のユーロ（16.2%→15.3%）がやや大きく低下し、日本円（8.4%→8.3%）も若干低下した。今回最も目を引いたのは、前回調査で8位であった中国人民元がシェアをさらに大きく上昇させ（2.2%→3.5%）、英ポンドに次ぐ5位へ順位を上昇させたことだ。上位10位の通貨の順位については、この中国人民元の躍進と、前回2019年に10位であったニュージーランド・ドル（1.0%→0.8%）が後退し、代わってシンガポール・ドル（0.9%→1.2%）が入った以外は順位の変動は無かった。香港ドルが順位9位で前回比不変ながら取引額シェアは1.8%→1.3%とやや目立つ低下となった。推測の域を出ないが、2020年の香港国家安全維持法の施行が、国際金融都市としての香港の地位に影響を与えるとの見方から、香港からシンガポールなどに機能を移転する金融機関もあったとの報道もあり、そうした動きの他、中国人民元のシェア上昇が影響している可能性もあり得よう。冒頭で既述の通り、本調査には52の国・地域が参加しているが、世界の外国為替市場における取引額は、上位10通貨で89.2%と9割近くを占めている（第5図）²。

これまで第3図の「その他」の通貨のシェアの緩やかな上昇傾向がみられ、中国人民元のシェア上昇傾向も加えると、主要先進国通貨から新興国通貨などへの取引シェアの分散が進む傾向がみられて来た。今回も中国人民元を加えると、こうした傾向は続いた。もっとも、今回は「その他」の通貨のシェアは11.7%→10.8%と低下した。ロシア国内の報告金融機関が今回対象から外れてルーブル取引が全てカウントされなかった影響などもあり、今後の趨勢を見極める必要はあるが、中国人民元を除けば、新興国通貨などへの取引シェア分散の動きは一旦弱まった可能性もあろう。

通貨ペア別の取引額シェアも、上位の顔ぶれは前回比不変だが、通貨別のシェアの動きを概ね反映して順位・シェアの変動がみられている（第4図）。前回2019年に6位であったUSD/CNYがシェアを上昇させて（4.1%→6.6%）4位に浮上。またシェアを上昇させたUSD/CAD（4.4%→5.5%）が、シェアを低下させたUSD/AUD（5.4%→5.1%）を抜いて順位が入れ替わった。この他USD/EURのシェアが相対的に大きく低下した（24.0%→22.7%）。通貨別でみた中国人民元の取引シェアの上昇は、殆どが対米ドル取

² 各通貨の略称は後掲の付表を参照。

引（USD/CNY）の増加によるものであったことになる。

第3図：世界の外為市場取引額の通貨別シェア推移

	(%)					
	2007年	2010年	2013年	2016年	2019年	2022年
USD	42.8	42.4	43.5	43.8	44.1	44.2
EUR	18.5	19.5	16.7	15.7	16.2	15.3
JPY	8.6	9.5	11.5	10.8	8.4	8.3
GBP	7.4	6.4	5.9	6.4	6.4	6.5
CNY	0.2	0.4	1.1	2.0	2.2	3.5
AUD	3.3	3.8	4.3	3.4	3.4	3.2
CAD	2.1	2.6	2.3	2.6	2.5	3.1
CHF	3.4	3.2	2.6	2.4	2.5	2.6
HKD	1.4	1.2	0.7	0.9	1.8	1.3
SGD	0.6	0.7	0.7	0.9	0.9	1.2
その他	11.6	10.2	10.6	11.1	11.7	10.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(資料) BIS “2022年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

第4図：世界の外為市場取引額の通貨ペアのシェア推移

	(%)					
	2007年	2010年	2013年	2016年	2019年	2022年
USD/EUR	26.8	27.7	24.1	23.1	24.0	22.7
USD/JPY	13.2	14.3	18.3	17.8	13.2	13.5
USD/GBP	11.6	9.1	8.8	9.3	9.6	9.5
USD/CNY	N.A.	0.8	2.1	3.8	4.1	6.6
USD/CAD	3.8	4.6	3.7	4.3	4.4	5.5
USD/AUD	5.6	6.3	6.8	5.2	5.4	5.1
USD/CHF	4.5	4.2	3.4	3.6	3.4	3.9
USD/HKD	N.A.	2.1	1.3	1.5	3.3	2.4
USD/その他	20.1	15.9	18.4	19.0	20.8	19.3
EUR/その他	10.2	11.4	9.3	8.3	8.3	7.8
その他ペア	4.2	3.8	3.7	4.2	3.4	3.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(資料) BIS “2022年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

第5図：世界の外国為替市場の上位39通貨による取引額内訳とシェア(2022年)

	(10億ドル、%)																																										
通貨	USD	EUR	JPY	GBP	CNY	AUD	CAD	CHF	HKD	SGD	SEK	KRW	NOK	NZD	INR	MXN	TWD	ZAR	BRL	DKK	PLN	THB	ILS	IDR	CZK	AED	TRY	HUF	CLP	SAR	PHP	MYR	COP	RUB	RON	PEN	BHD	BGN	ARS	その他	合計		
取引額	6,641	2,293	1,253	969	526	479	466	390	194	183	168	142	125	125	122	114	83	73	66	55																							
シェア	44.2	15.3	8.3	6.5	3.5	3.2	3.1	2.6	1.3	1.2	1.1	0.9	0.8	0.8	0.8	0.8	0.6	0.5	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	100.0	

(資料) BIS “2022年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

4. 外国為替市場取引額の地域別シェア

外国為替市場取引額の地域別シェアをみると、2022年も1位の英国から7位のフランスまで前回2019年と順位は不変であった(第6図)。依然として英国(ロンドン)は世界最大規模の外国為替市場となっており、それに米国(ニューヨーク)、シンガポール、香港、日本(東京)と続く形になっている。これら5大市場で世界の外国為替取引の78.4%が行われている。

前回2019年と比較したシェアの変化をみると、英国(43.2%→38.1%)や香港(7.6%→7.1%)が低下した一方、米国(16.5%→19.4%)やシンガポール(7.7%→9.4%)が上昇した。英国のシェア低下については、フランス(2.0%→2.2%)やドイツ(1.5%→1.9%)が上昇しており、英国のEU離脱による一部金融機関の業務移転が影響している可能性もあろう。香港のシェア低下も、通貨別のところでも既述の通り、2020年の香港国家安全維持法施行が影響し、金融機関によるシンガポールなどへの業務移転が影響している可能性もあろう。日本のシェアは前回2019年と比べ若干の低下(4.5%→4.4%)であっ

た。2010年の調査までは、日本は概ね英国、米国に次ぐ世界第3位の取引規模を誇る外国為替市場であったが³、その後2013年以降はシンガポールに、2016年以降は香港に、それぞれ逆転を許し続けており、今回はシンガポールとの差がさらに開いた形となった。

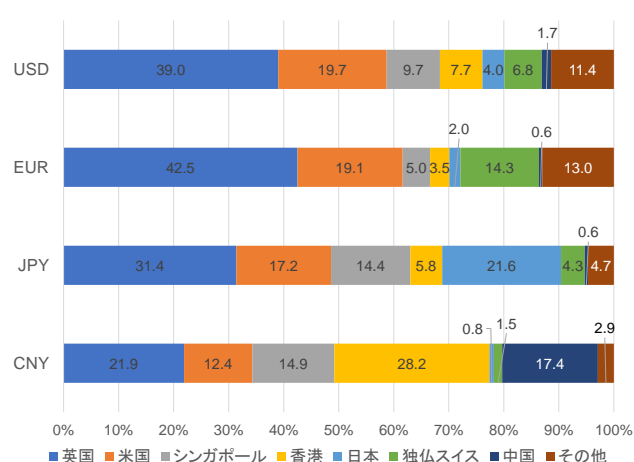
主要な通貨の地域（市場）別の取引額シェアをみると、米ドル、ユーロ、日本円は英国で最も取引されている一方、中国人民元は、香港で最も取引が行われている（第7図）。日本円は約2割が母国市場である日本で取引されているが、残り約8割は海外市場で取引されている構図となっている。

第6図：世界の外国為替取引額の地域別シェアの推移

	2007年	2010年	2013年	2016年	2019年	2022年
英国	34.6	36.7	40.8	36.9	43.2	38.1
米国	17.4	17.9	18.9	19.5	16.5	19.4
シンガポール	5.6	5.3	5.7	7.9	7.7	9.4
香港	4.2	4.7	4.1	6.7	7.6	7.1
日本	5.8	6.2	5.6	6.1	4.5	4.4
スイス	5.9	4.9	3.2	2.4	3.2	3.6
フランス	3.0	3.0	2.8	2.8	2.0	2.2
ドイツ	2.4	2.2	1.7	1.8	1.5	1.9
カナダ	1.5	1.2	1.0	1.3	1.3	1.7
中国	0.2	0.4	0.7	1.1	1.6	1.6
その他	19.3	17.4	15.5	13.4	10.7	10.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(資料) BIS “2022年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

第7図：主要通貨の取引額の地域別シェア(2022年)



(資料) BIS “2022年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

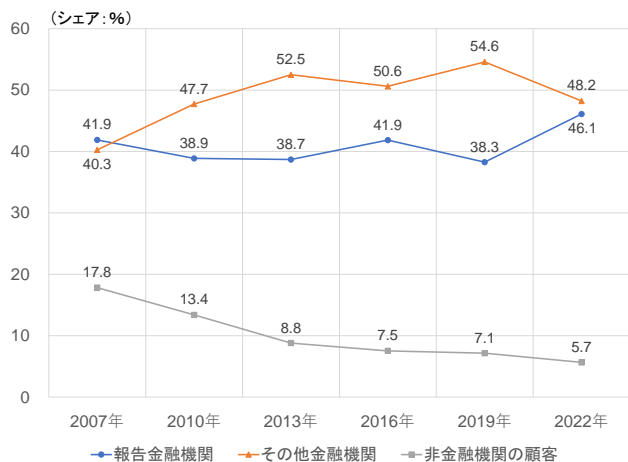
5. 報告金融機関の取引相手別シェア

本調査は、インターバンク（ディーラー）市場に参加し、公的機関や大手企業など主要な顧客とも活発に取引を行っている大手の商業銀行・投資銀行を中心とした「報告金融機関（reporting dealers）」の報告を集計している。第8図は、この報告金融機関の取引相手が、他の報告金融機関であるか、地域金融機関など小規模金融機関や機関投資家を含む「その他金融機関」であるか、あるいは金融機関以外の顧客である「非金融機関の顧客」であるかに分類してそのシェアの推移をみたものである。報告金融機関とその他金融機関がそれぞれ約4割～5割のシェアと、外国為替市場における取引の多くを占めている一方、非金融機関の顧客のシェアは低下傾向にあり、足元1割弱と小さいものとなっている。特に調査が行われた2022年4月は、為替市場のボラティリティが高まった時期であったため、顧客との取引から生じるカバー取引の必要性が高まり、報告金融

³ 1995年以降でみると、1998年に一時的にシンガポールが、2007年に一時的にスイスが、それぞれ3位に浮上し、日本は4位となっていたことがあった。

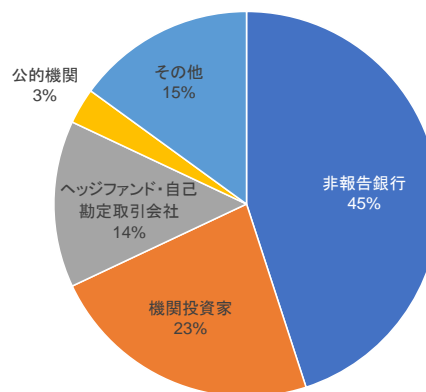
機関同士の取引シェアが高まったと BIS は指摘している。2022 年のその他金融機関のより細かい内訳シェアは第 9 図の通りとなっている。

第 8 図:報告金融機関の取引相手のシェアの推移



(資料) BIS “2022 年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

第 9 図:「その他金融機関」の内訳(2022 年)



(資料) BIS “2022 年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

6. まとめ

今回の調査では、世界の外国為替市場の取引額の伸びはやや鈍化したものの、引き続き拡大基調にあることが確認された。通貨別のシェアでは、総じてドル、日本円など主要通貨はこれまでのシェアを維持していた一方、中国人民元のシェアが比較的大きく上昇した。中国人民元の取引額（シェア）の増加は、対米ドル取引によるものが殆どであるため、ドルのシェア低下に結び付くことはなく、ややシェアが低下したユーロや香港ドル、その他通貨に含まれる新興国通貨などのシェア低下につながった可能性がある。本調査は、調査年の 4 月のイベントや市場情勢に影響を受け易い。この点、2022 年 4 月は急激な円安が進行していたため、日本円の取引額が通常より底上げされており、逆に上海市などでロックダウンが行われていた中国人民元は取引額が通常より下押しされていたとみられる。本来であれば、日本円も中国人民元のシェア上昇の影響をより大きく受けていたかもしれない点には留意が必要だろう。

今回の調査に基づく外国為替市場の取引額で見ると、日本（東京市場）の国際金融市場としての地位も、米国市場やシンガポール市場にさらに水をあけられている。東京のシェアは小幅な低下であったが、上述した円安による取引額の底上げが無ければ、より低下していたとみられる。一方、推測の域は出ないが、英国は EU 離脱、香港は香港国家安全維持法の影響からシェアが低下した可能性も否定できない。こうした動き、特に地理的に近い香港の動きなどは、東京市場のプレゼンス向上のチャンスでもある。日本

経済の成長率底上げや国際金融市場としての東京市場の魅力向上など、長年の政策課題を早急に強く推進することが改めて求められよう。

以上

付表：各通貨の略称

AED	United Arab Emirates dirham	JPY	Japanese yen
ARS	Argentine peso	KRW	Korean won
AUD	Australian dollar	MXN	Mexican peso
BGN	Bulgarian lev	MYR	Malaysian ringgit
BHD	Bahraini dinar	NOK	Norwegian krone
BRL	Brazilian real	NZD	New Zealand dollar
CAD	Canadian dollar	PEN	Peruvian sol
CHF	Swiss franc	PHP	Philippine peso
CLP	Chilean peso	PLN	Polish zloty
CNY	Chinese yuan (renminbi)	RON	Romanian leu
COP	Colombian peso	RUB	Russian rouble
CZK	Czech koruna	SAR	Saudi riyal
DKK	Danish krone	SEK	Swedish krona
EUR	euro	SGD	Singapore dollar
GBP	pound sterling	THB	Thai baht
HKD	Hong Kong dollar	TRY	Turkish lira
HUF	Hungarian forint	TWD	New Taiwan dollar
IDR	Indonesian rupiah	USD	US dollar
ILS	Israeli new shekel	ZAR	South African rand
INR	Indian rupee		

(資料) BIS “2022 年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

Copyright 2022 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)
All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話：03-3510-0882 (代)

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <https://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくご申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。